

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2年 7月 14日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 21名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3873300291
事業所名	グループホーム菜の花
(ユニット名)	すみれ
記入者(管理者)	
氏名	古川真奈美
自己評価作成日	令和 2年 6月 30日

<p>【事業所理念】</p> <p>1.私たちは優しい介護の提供を目指します。</p> <p>2.温かい家庭的な安心できる環境づくりをいたします。</p> <p>3.常にご利用者の立場になる事を忘れません。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①地域との交流が増え、行事などに気軽に参加していただけるよう一認知症カフェの定期的な開催</p> <p>②外出する機会が増える→1週間に1度は散歩する、1ヶ月に1回以上外食の支援をする</p> <p>結果…①目標に向け検討はしているが、達成には至っていない。</p> <p>②毎月ではないが外出支援は実施している。ユニットにより差はあるが要望を聞きながら、以前より外出の機会は増えている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は国道近くの住宅地に位置し、近隣には小学校や幼稚園がある。母体施設が医療機関であり、小規模多機能型居宅介護や居宅介護支援事業所にも併設し、近くには系列のサービス付き高齢者向け住宅がある。広い敷地内に平屋の建物が3ユニットあり、どのユニットからも見渡せる大きな中庭がある。中庭の桜の木では、利用者がサクラソノの収穫を毎年楽しみにしている。芝生の中庭に車いすで降りると、普段とは伝わる振動が異なるのか利用者も大変喜ばれている。また、事業所内は天井が高く、明り取り窓からもよく陽が入るため、建物全体が明るく開放的な空間となっている。職員は介護未経験での入職者も複数いるが、勤務歴の長い職員が多く、性別、年齢層ともにバランスのよい職員配置となっている。</p>
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前に確認している。また、日々の会話などでも希望や意向を確認している。	○	/	○	職員は、入居時に聞き取りを行うほか、入居後も日々の会話の中で意向の把握に努めている。利用者ごとに担当の職員を決めており、新しく把握できた情報は、月1回のミーティングで職員間で共有し確認している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	表情を観察し職員間で話し合い、本人の立場に立って考えている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に施設での様子を伝えながら本人の思いなど話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	言葉や気づきを観察記録や日誌に記入している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	一方的にならないよう本人の言葉や言動に耳を傾けながら対応するよう努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前に出来るだけしっかりと聞き取りようになっている。	/	/	◎	職員は入居時に利用者や家族、利用していたサービス事業所、担当していた介護支援専門員等から情報を収集している。入居後も、面会や電話連絡時に職員は家族から話を聴く機会を持つよう心がけている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	出来る事、出来ない事を見極めながら出来る事は続けてもらいながら、また、出来そうな事を少しずつチャレンジしてもらっている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	生活場面での気付きは申し送りなどで把握するようし、職員間で情報共有に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	その都度職員間で話し合ったり、ミーティングで話し合うようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	24時間シートを活用し、観察記録や申し送りで把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	多職種間で話し合う機会を作り、ユニットで情報共有するよう努めている。	/	/	◎	職員の他、主治医や看護師、リハビリスタッフ等多職種からの意見も取り入れて情報共有している。それらの情報は日々の観察記録や日誌に記録されるほか、月1回のミーティングで職員間で共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	月1回のミーティングで話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	毎月モニタリングを行い、情報共有したうえで課題を明らかにするよう努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	アセスメントを基に本人らしい生活が出来るように具体的なプランになっている。	/	/	/	職員は、家族へこまめに連絡を取って日頃の様子や受診の結果を報告しており、その際に介護計画の意見も確認するようにしている。母体法人は医療機関であるため、事業所では主治医の他、理学療法士や言語聴覚士など医療従事者と密に連携が取れていることもあり、介護計画の意見をもらう機会が多い。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人や家族の思いを聞き取り、出来るだけ希望を反映できるよう作成している。	○	/	/	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意思疎通の困難な利用者は家族から聞き取りを行い、本人の思いをくみ取るように努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力的体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族や地域資源も少しではあるがプランに盛り込まれている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	プランに沿ってモニタリングを行い、ミーティングで話し合い内容を理解するようにしている。	/	/	◎	ユニットのすべての利用者分の介護計画を抜粋し、ユニットごとに置くようにしており、職員は内容の把握と理解に努めている。日々の様子を記載している観察記録には、介護計画の内容を細かくチェックする欄を設けており、職員は毎日◎○△×などの記号を付け、達成できたかどうかの確認を行っている。また、観察記録には利用者の様子や会話の内容を記載するようにしており、職員の気づきは申し送りノートや日誌に記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	ミーティングでモニタリングの内容を職員間で共通理解し、問題点を話し合い、目標を達成できるような支援内容を話合っている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	観察記録には本人の言葉やその時の表情を不十分ではあるが記入されている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日誌や申し送りノートに記入するようにしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	ミーティングで話し合い、期間に応じて見直ししている。	/	/	◎	月1回、利用者ごとの担当職員は利用者の様子を取りまとめ、ミーティング内で他の職員の意見も踏まえてモニタリングをしている。基本的には6か月ごとに計画を見直ししており、入居時等は3か月程度で見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリングを職員間で確認を行い、ミーティングで現状把握するようにしている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入院やその他、本人の状態に変化が生じ、家族や関係者の新たな要望や意見等聞き取り、その方の状況に応じたプランを作成している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	定期的には月1回のミーティングで話し合い、緊急時にはその都度、ユニットで話し合うようにしている。	/	/	◎	緊急の場合はその日の勤務職員で話し合っているが、基本的には月1回のミーティングで利用者のモニタリングを行ったり、法人からの申し送りを情報共有したりしている。また、日々の申し送りは毎日朝夕に行なわれ、内容はミーティングノート等に記録し、参加できなかった職員にも共有されている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員一人一人意見を発言するようにし、また他の職種の意見も取り入れながら、話しやすい雰囲気づくりをしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	職員が予定を立てやすいよう基本的に月初めの週で、まやユニット内で参加しやすい時間帯にしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	ミーティング内容はノートに記載し、後で確認し情報共有出来るようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートや日誌を活用している。	/	/	◎	申し送りノートやミーティングノートの他、日誌にも丁寧に記録されており、職員全員で情報共有ができています。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝・夕2回の申し送りを行い、重要なことは申し送りノートに記載し情報を共有できるようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	声掛けを行い、本人のしたいことを把握し、支援出来るように努めている。	/	/	/	職員は、洋服選びや買い物の際、利用者が自由に選択できるよう支援している。家事を職員と一緒にいかどうか、入浴するかどうか等、日々の生活の中で様々な場面において利用者のペースで過ごすことができるよう配慮している。週1回レクリエーションの日をつくり、職員は利用者楽しく過ごしてもらえるよう工夫している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	生活の中で自己決定できるよう声掛けを行い、出来るだけ自己決定の機会を持つようしている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	利用者に合わせて個別の声掛けや会話方法(難聴の方には筆談など)を行い、出来るだけ自己決定できるような支援に努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	本人の意向や体調など本人のペースに応じて、起床時間や朝食を遅らせたり、排泄もその方に応じた定期誘導を行い、入浴も各利用者に応じたタイミングを見ながら支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人の楽しみや得意としているものを聞き、役割のある暮らしができるように支援している。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	◎	表情や体の動きなどを見極めながら支援するようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	声掛けや対応については常に意識するようにミーティングで振り返り話すようにしている。	○	○	△	法人として接遇研修を実施しているが、管理者は「訪室時のノックなど、できている職員とできていない職員の差がある」と感じている。今後はより一層、利用者等へのプライバシーに配慮した支援ができるよう、職員全体の意識向上を期待したい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	声掛けの仕方や配慮に欠けている場面もある為、対応についてはミーティング等で振り返りの機会を持ち、意識付けに努めている。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	気を付けているが大きい声掛けになったり、周囲を気にせず声をかけてしまうこともある。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	各利用者に声掛けして出入りするようにしており、プライバシーには配慮している。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	就職時説明し、誓約書をとっている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	出来る事を手伝ってもらいながら、感謝の気持ちを伝えるようにしている。	/	/	/	職員は、利用者が精神的に不安定な時や他の利用者やトラブルになりそうな時には、お互いに顔が見えない位置に座ってもらよう配慮したり、自室で過ごせる時間を作ったりするなど、工夫した対応に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士がお互いにいたわりながら暮らせるよ見守り、職員も大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)	◎	トラブルになる場面もあるが、職員が間に入り孤立しないよう努め、また仲の良い利用者が一緒に過ごせるよう座席の配置なども変えたり、ソファを活用したり、お手伝いの場所なども工夫している。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員がさりげなく間に入りそれぞれの利用者のプライドを傷つけないよう解消に努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	一部の方だけが人間関係の把握は出来ている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	本人との会話や家族からの聞き取りを通して情報収集している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	住み慣れてきた地域とのかかわりが途絶えないよう地域に出かける機会を持ったり、知人の面会などもある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	毎月、お手紙で近況を家族に伝え、面会を促したり、面会時には居室に誘導しゆっくり話せるようにしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナウイルス感染予防対策により、外出は出来ていないが中庭に出て日光浴をしたり、希望に応じて散歩に付き添うなどしている。	○	×	○	事業所の中庭は大変広く、十分な散歩スペースがあるため事業所の外へ散歩に出掛けることは少ないが、重度の利用者も車いすで中庭の芝生まで出て日光浴をするなど、気分転換をしている。毎年、中庭の桜の木でサクラノボを収穫しており、利用者は楽しみにしている。移動スーパーに来てもらったり、利用者から希望があれば、職員は利用者と一緒に近隣のスーパーに出かけたりすることもある。現在は、新型コロナウイルス感染症対策で外出を控えているが、定期的に外出行事を企画しており、今後は利用者の希望で外出に行く機会を増やしていく予定である。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	家族の協力や職員の対応で外出に努めている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	利用者の状態を見ながら日光浴に対応している。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族の協力で隣市に食事に出かけたり、ホテルに泊まったりされている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症については内部研修を行い、ここの症状に応じたケアに努めている。	/	/	/	職員によって多少差があるものの、利用者が一人できそうなことは介助し過ぎず、寄り添い見守る支援を行っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	日常生活の中で機能維持が出来るようにフロア内の自走や歩行見守り、椅子に移乗し過ごす、入浴やトイレ解除も出来ることはしてもらうように支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来る事はして頂き、出来ない所を一緒にするようにしている。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	生活歴や会話の中で得意とすることを役割として生活できるよう支援している。	/	/	/	訪問調査日には、男性利用者が配達された食材を各ユニットに運んでいる姿を見ることができた。その他の利用者も調理の下ごしらえをしたり洗濯物を畳んだり、可能な範囲で職員と一緒に手伝いしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	本人のレベルに応じた役割を持てるよう取組み、出来るだけ張り合いのある生活が送れるよう支援している。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	小学校の運動会の見学などで楽しみが持てるよう支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人との会話の中で好みなどを把握するようにしている。				重度の利用者であっても、職員は朝の着替えを必ず支援している。また、髪型についても希望があれば、職員と一緒に美容室へ出かけたり、好みのスタイルを確認して職員が散髪したりしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	自分で出来る方は服装を選択出来たり、髪長さも好みの長さ出来るよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の気持ちを出来るだけ取り取るようにして、一緒に考え決定できるように努めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	衣替えは家族に協力してもらい、季節に合った洋服選びを行い、その人らしさを楽しめるよう努めている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	さりげなく声をかけたり、支援して手直したり、清潔にできるよう支援している。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族の協力で本人の行きたい美容室に行けるように努めている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	これまでの好みや髪形を生かして、本人らしさが保てるように努めている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	本人の使い慣れたものを持ってきてもらっている。				法人内の栄養士が献立を立てているため、利用者や職員の希望が急な変更は難しいが、バランスの取れた季節感のあるメニューとなっている。年に数回ある行事食の際には、事業所で献立を作成するため、利用者から出された人気メニューを作ることにしている。調理は毎食ユニットで行い、刻み食等の対応もしている。利用者は使い慣れた食器を使用しており、職員と一緒に食事をしていないが利用者のそばに寄り添い、美味しく食べられるよう声をかけたり介助をしたりしている。訪問調査日には、食べ終えた利用者が下膳をしている様子が見られた。また、重度の利用者も食事の際には、リビングで一緒に食べるようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	下膳や食器洗いなど出来る利用者には手伝ってもらっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	手伝ってもらうことで利用者の力を発揮でき、自信にもなっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	アセスメントの情報や本人との会話、家族からの聞き取りなどを把握するようにしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	献立は併設の病院の栄養士が立てており、旬の物を取り入れた季節感のメニューになっている。個別の好みはユニット職員で把握している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	個々の状態や機能に応じた食形態にて盛り付けも他の方と同じようにおいしく見えるように工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	茶碗・お箸・湯呑は自宅から使い慣れたものを持ってきてもらっている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員と一緒に食べてはいないが、食事中は食事介助や見守りでサポートするようにしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	食事前に調理のはフロアで調理の様子を見ることができ、匂いや雰囲気味わってもらっている。	○		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	配膳する量は一緒だが、水分や食事は記録で管理している。献立は栄養バランスを考え栄養士が立てている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事を遅らせたり、水分はこまめに摂ったり、好みの水分にしたりタイミングも考えながら対応するようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りが無いように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立については栄養士が管理しているので話し合いはないが、栄養バランスには問題ない。調理方法についてはユニットで話し合い個別対応している。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食器乾燥機の活用や定期的ハイター消毒など行っている。				

愛媛県グループホーム菜の花

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの重要性を理解し、日々、毎食後の口腔ケアに努めている。	/	/	/	居室内に洗面台があり、食後に歯磨きをするよう職員は利用者に声かけをしている。自分で歯磨きができる利用者には、職員が口腔内の細かい部分まで確認できていないが、月1回歯科医の往診があり、状況に応じて診てもらっている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	毎食後の口腔ケアの時や食事時に確認するようにしている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	月1回歯科医に訪問してもらい、ケアの仕方など相談したりアドバイスも受けている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	出来る方は付き添って出来ない方は職員が付き添って、適切に行えるよう支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後、口腔ケアの誘導を行い、必要な方は付き添って出来ることはしてもらい努め、日常的に支援している。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	月1回の定期往診時に相談し、家族と相談しながら往診や受診などで対応している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	おむつ使用の利用者もトイレで排泄できるよう誘導を行い、意欲の向上や身体機能の向上に努めている。	/	/	/	職員は、ユニットに2か所あるトイレが使用できることを基本に、タイミングを見ながら声をかける等、工夫した支援をしている。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいるが、日中はトイレを使用できるよう声かけを行っている。介助方法の変更や工夫等についてはミーティングで職員間で検討され、情報共有されている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘の及ぼす影響について理解し、トイレでの排泄を継続したり、体を動かすようにしてもらっている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表に記入し把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	個々の状態に応じて排泄ケアについて話し合い見直している。個々に応じたトイレ誘導などの排泄ケア努めている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	個々に応じた水分補給の促しや体を動かすことで少しでも改善できるよう努めている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表によりパターンの把握に努め、個々に応じた誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	おむつ類の変更は個々の利用者の状態に応じて、認知の状態や尿意便意の有無に応じて変更しているが、家族とは話し合っていない。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	個々の状態に応じて日中は布パンツや紙パンツ、夜間はおむつ対応にしたり、またパットも日中と夜間と使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	体を動かすことや定期的にトイレに座ること、水分量のUPなどの対応をしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	午前午後と声掛けを行い、出来るだけ希望に添えるように入浴してもらっている。	◎	/	◎	車いすの利用者も多くなったが、職員が2人体制で介助するなどの工夫をして、できるだけ浴槽に浸かってもらえるよう支援している。入浴が億劫になっている利用者もいるが、声をかける時間帯やタイミングを変えてみたり、対応する職員を代えたりしながら気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	1人づつ1対1で入浴してもらい、また自分のペースでゆったり入浴してもらっている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	充分できなくても自分で洗える所は洗ってもらい、後でさりげなく洗い直したりして対応している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	拒否が見られたら少し話を聞いたり、時間を置くなど様子を見ながら対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にはバイタル測定し状態確認後、入浴後は必ず水分補給してもらっている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	観察記録や申し送りで把握するようにしている。				睡眠導入剤等を処方されている利用者もいるが、職員は翌朝の状態や日中の様子など細かく主治医に報告し、減薬等の調整をしてもらっている。夜間も落ち着かない様子でリビングや廊下を歩く利用者もいるが、職員はそっと寄り添って支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の生活リズムを整える工夫や離床時間を増やすなどしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	主治医に本人の状態や日中の活動などを報告し、相談しながら調節してもらっている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	出来る方は自由に支援がある方はベットやソファに誘導し休んでもらえるよう支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	家族からの電話の取次ぎはしているが、利用者からかけたり、手紙のやり取りはしていない。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	希望があれば対応しているがそれ以外の取組は出来ていない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	いつでもできるよう声掛けもしているが、かけられたことはない。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	届いた手紙は本人に渡しているが、そのままになっている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	家族の理解や協力が得られる方をお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	買い物希望があれば本人が選べるよう、一緒に買い物に行くようにしている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	個別の買い物動向や外出時に自分で支払いしてもらっている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	買い物先は近隣店舗を利用している。移動スーパー利用で協力を得ている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	必要に応じて家族に相談し、個別にお小遣いを預るようにし、買い物に行きたい時は個別に対応している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	入所時や必要に応じて話し、面会時には使い道なども家族に報告している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	小額を金庫で預かり、預かり簿に記入し出し入れがあった時には2人対応で残金を確認している。面会のタイミングで家族に確認してもらっている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族の協力や職員間の話し合いを行い、出来る限り、個々の意向に沿った対応が出来るよう取り組んでいる。	○	○	基本的に併設の医療機関以外への受診は、家族の付き添いをお願いしているが、状況によっては職員が同行支援を行うこともある。また、職員はできる限り利用者や家族の意向に沿えるよう工夫したいと考えている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	安全上、外玄関は常に施錠している。	○	○	△	外玄関は施錠されているため、事業所へ気軽に出入りができる状態とは言い難い。ユニットの入口は整頓されており、中庭の花や緑が見えて明るい雰囲気である。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	天井は高く開放的で明るく、程度な広さでソファやピアノなど家庭的な物を配置してある。壁には利用者の作品や季節の飾りを行い、家庭的な雰囲気を心がけている。	○	○	○	リビングの天井は高く広々としており、高い位置にある明り取り窓のおかげで陽がよく入り、とても明るい。職員が毎日掃除をしており、全く臭気は感じられない。職員手づくりのトルペイント(絵の具を塗った木製品)の作品が飾ったり、ピアノを置いたりするなど、家庭的な雰囲気になっている。大きな掃き出し窓からは中庭の緑が見渡せ、開放感のある空間である。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除は毎日、定期的に換気も行い清潔感ある空間を心がけている。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	対面キッチンで食事作りの匂いが分かり、洗濯物もフロアで畳んだりして利用者がいろんな刺激を受けてもらえるよう工夫している。	/	/	/		◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	ソファや椅子の配置でくつろげるよう工夫しており、一人でもくつろいでテレビなど見られたりしている。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレはフロアからは見えない位置にあるが、浴室はフロアから見えており、ドアは開け閉めに配慮が欠けていることもある。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使用していた使い慣れたタンスや物や写真を持ってきてもらっている。	○	/	/	居室には一通りの家具は揃えてあるほか、利用者は馴染みの物を自由に持ち込みことができる。利用者は使い慣れた家具や仏壇など思い思いのものを持ち込み、心地よい空間となるよう配置も工夫されている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや浴室は表示をして分かりやすく、また手すりや呼び出しコールを設置して安心、安全な環境に努めている。	/	/	/	○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室には名前の表示、トイレにも表示をすることで認識間違いを防いでいる。	/	/	/	トイレや浴室には表示があるほか、居室入口には表札をかけており、利用者が迷わないよう工夫されている。それらの表示は、職員手づくりのトルペイントの作品を使用しているため、家庭的な雰囲気になっている。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌やレクの道具など自由に取れるようなところに置いてある。	/	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	理解は出来ているが、認知症の症状による行動による危険性を優先している。利用者によっては中庭に面した窓から自由に出入りするように見守りしている。	×	×	△	外玄関は防犯面から常時施錠されているが、ユニットの入口は出入りが自由になっている。利用者には自由に移動してもらえるよう職員がそっと付き添い支援をしている。現在は、新型コロナウイルス感染症対策として、あまり他のユニットへ利用者が移動しないよう配慮している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	×	家族には安全面の配慮などの説明を行い、理解して頂いているが、話し合っていない。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	利用者の認知症による特性を理解し外出や外出傾向の把握はしているが、カギを開ける工夫は出来ていない。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居時に聞いた情報をまとめ、個々のファイルにとじてあり、いつでも見れるようになっている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日のバイタルや食事や排泄状態や体調の変化は記録に残している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療機関とは日中夜間共にいつでも連絡できる体制にあり、早期に報告相談している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人の状態や家族の意向により、受診してもらっている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	主治医と連携し、また協力医療機関とも連携を取り、早期に対応できるようになっている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必要に応じて主治医の説明が家族に行われ、合意を得られるように努めている。他科受診の場合も結果を報告してもらうようにしている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院に必要な情報をまとめ、情報提供している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	ケアマネージャーが病院と連絡を取り、必要な対応を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	併設の医療機関や協力の医療機関との関係作りを努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎朝、夜勤者が主治医に状態を報告している。日々気になることも看護師にまず報告し、主治医から指示をもらうようにしている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間の連絡体制は整っており、相談できる体制になっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日、バイタルや体調の変化等を報告し、早期の対応に努めている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者で使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬情報はユニットで保管し確認できるようにし、週1回の処方箋はユニット職員が仕分けしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れや誤薬を防ぐため、2名体制で確認し、内服直前にも声出しし2人確認を行っている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬の変更時などは特に注意して変化がある時は、必ず早めに主治医に報告するようにしている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	週1回の定期診察時や必要に応じて主治医や看護師に状態を報告し、必要な指示をもらい家族にも報告するようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居の契約時に重度化や終末期の対応を書面で説明し、家族に配布している。状態変化時には主治医から症状の説明があり、家族の意向も確認している。	/	/	/	事業所では終末期や重度化の支援について、利用者や家族の意向をきちんと把握した上で、主治医等多職種でしっかりと検討をするようにしている。事業所の居室で最期まで看取することは少なく、併設の医療機関へ移る場合がほとんどではあるが、利用者や家族の意向に沿えるよう職員間で話し合いを重ねている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	必要に応じて家族や主治医と相談しながら、家族の意向に応じた方針を共有するようにしている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の力量については把握しており、思いも聞きながら、出来る支援の見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	出来る事と出来ない事を伝え上で医療と連携し、対応については家族に説明し理解してもらうように努めている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療機関とは密に連絡を取りながら、状況に応じて、必要時は訪問看護の協力も得ながら対応している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族と話す機会を持ちながら、家族の気持ちに寄り添えるように努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	併設の医療機関での各種の研修に参加し、マニュアルも作成している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	併設の病院で行われる研修時に看護師による指導を受け、また、早期対応にも心掛けている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビや新聞、併設する病院からの情報を取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	病院からの情報や指導を基に予防対策をとっている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	施設に入る前に検温、手洗い、手指消毒ごマスク着用してから勤務するようにしている。面会者にもマスク着用と消毒をしてもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	面会時や毎月のお手紙で現況報告し、必要に応じて相談しながら支援している。	/	/	/	事業所では利用者の病院受診後の報告など、職員から家族への連絡をこまめに行っており、利用者の写真がたくさん掲載された便りも作成し郵送している。今後は、職員の異動や入退職の報告についても、便りに盛り込むことなどを検討し、家族への伝達方法を工夫することを期待したい。また、避難訓練等のこれまで家族が参加することを企画していなかった行事にも、家族が参加できることの検討を望みたい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	宿泊はないが、日頃の面会時は明るい対応を心がけ、居室でゆっくり過ごせるように対応している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	外食時の参加や行事参加の呼びかけは行っている。	○	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月現況報告のお手紙は発送している。	○	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	個々の家族の要望に応じて必要な報告を行っている。また、聞かれたことについては伝えるようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	施設での状態や認知の症状や対応など家族に説明し、理解を得るように努め本人の理解と関係性の構築に努めている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事の報告はしているが設備や職員の情報は伝えていない。聞かれたら答えるようにしている。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	行事参加程度で家族中心の交流については機会がない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	必要に応じて説明し、本人が出来るだけ自由に過ごせるように努めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	いつでも話してもらえる関係作りに取り組んでいる。面会時は職員から積極的に声をかけ安心してもらえるよう報告している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	文書にて説明し理解を得て、控えも渡している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	転居や入院など相談に乗り、家族の意向を聞き、納得いくような決定が出来るように対応している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	改定時には文書にて説明し、同意を得て文書も渡している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	現在は運営推進会議に民生委員や地域の方に参加してもらい、行事や研修の報告、施設内の様子を見てもらい理解を図っている。	/	○	/	外玄関が施錠されていることも影響するのか、事業所には地域住民が気軽に立ち寄ってくれる関係性には至っていない。地域住民等からは地域行事への誘いも多くあり、幼稚園児の訪問など交流をしている。管理者は、「今後さらに外出の機会を増やし、地域との交流を増やしていきたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日々の挨拶は職員にも促し、地域のお寺の行事に参加したりしている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	地域との交流はない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	今はないが今後は気軽に立ち寄ってもらえるようにしていきたい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶する程度で日常的なおつきあいはない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	介護相談員の受け入れや行事の際は地域のボランティアの方にも参加し協力してもらっている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域のスーパーや移動スーパーを利用させてもらっている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の幼稚園や小学校とは以前から交流を続けている。また、近隣の飲食店やスーパーは利用している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	出席は利用者や家族、地域の住民や民生委員、市役所や包括支援センターの参加がある。	/	×	◎	運営推進会議では、毎回順番に利用者と家族に参加してもらっており、地域からの出席率も高い。出席者から外玄関の施錠に関することなどの質問も出され、会議内の意見交換も活発になされている。今後は、日頃の事業所の活動報告に加え、外部評価についても報告を行うなど、各種の課題について具体的な意見を参加者に求めてみるような試みにも期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	施設の活動内容(行事や研修など)は報告しているが、外部評価や目標達成計画と取り組み状況については報告していない。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	各参加者については一人一人に意見を聞き、サービスに活かすように努めているがその後の報告は出来ていない。	/	/	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマは決めていない。参加者の都合は出来るだけ調整し出席しやすい日程や時間帯にしている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	公表はしていないが閲覧できるようにはしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所の理念は家庭的な雰囲気作りになっている。見える所に張り出して意識して実践できるようにしている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	定期的に発行する菜の花だよりはに施設の理念を載せている。	x	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	必要な研修については代表者と管理者が相談し、各職員の力量に応じて時期を見て研修参加できるように取り組んでいる。	/	/	/	代表者は、職員のストレス軽減などの特別な取組みを行っているわけではないが、法人全体での忘年会や納涼会を毎年開催するなど、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	新人については入職時に計画的に研修を行い新人教育を行い、現職については計画的に教育は行っていないがスキルアップできるよう技術を伝えている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	管理者が定期的に職員一人一人の評価を行い、代表者がそれに基づき給与や賞与、役職など検討している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	外部研修などの参加を通して他事業所との関わりを持つようになっている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	話を聞いてもらえる機会はあるが、ストレス軽減にはなっていない。	○	◎	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	不適切なケアや虐待については資料でミーティングで研修を行い、日々のケアの中で気づいた時に具体的に説明している。	/	/	/	定期的に法人として虐待防止等の研修会を実施している。不適切なケアは見過ごされることなくミーティング等の機会に検討され、職員同士で互いに意識を高め合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	申し送りや日々の現場の中で話す機会を持っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	マニュアルに基づき、日々適切なケアに努め、不適切なケアがあった時はその都度、現場で振り返るようにしている。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員からの報告や気になる場合は個別に話を聞くなどして注意をしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	代表者管理者は理解できているが、各職員については経験や資格の有無など差があり理解が不十分なこともある。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ミーティングで話し合う機会を持ち、現場の状況に即して具体的に説明し理解できるよう努めている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	弊害や取り組みについて説明し、代替になる工夫を説明し、理解してもらうようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	資料等で理解するように努めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があればその都度、情報提供や相談支援を行っている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	個々の利用者の状況に応じ、必要な支援に努めている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成しており、回覧やミーティングでの申し送り等で周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	日々の支援のなかで実践しながら身につけるようにしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットの必要性について職員に説明し、ミーティングで情報を共有し検討することで再発防止や事故に繋がることを防いでいる。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	日々の申し送りやミーティングで状態を把握し、個別に話し合い検討し事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルはあり、リスクや危険はミーティング等で話し合っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情があれば早期に報告し、対応を検討し対応するようにしている。市町に報告する事例は今までない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情に対しては早期に対応し、回答するとともに納得を得ながら次の支援に繋げていくように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	意見箱を設置している。運営推進会議でも意見を聞いている。			◎	職員は利用者の意向を日々の支援の中で聞き取るよう配慮しており、外出や食事のメニューなど聞き取れた意見はミーティングで職員間で検討している。家族からの意向や要望はあまり多くは引き出せていないものの、職員は面会時や電話連絡時にしっかりと時間を取るよう心がけている。家族からの要望については、苦情等の扱いで職員は丁寧に対応している。また、職員は各ユニットのリーダーや管理者に相談することができており、内容によっては事務長や理事長にも報告し対応している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱は玄関先に設置している。面会時や運営推進会議などで意見を聞いている。また、面会時には個別で意見を聞くようにしている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約時には行っているがそれ以降は行っていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	訪問診療時など現場に来る機会はあるが、声掛けはされるが個別に話す機会はない。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	利用者の支援のため、職員と関わりを密に持つ機会を持っている。			◎	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回は自己評価を行い、取り組んでいる。				運営推進会議において外部評価に関する報告が十分に伝わっていないのか、アンケート結果等からは家族や地域住民の外部評価への理解度が低い様子である。今後は、さらに積極的な報告や意見交換などの取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を回覧し、課題が何かを明確に出来るよう努めている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	ミーティングで結果報告を含め、話し合う機会を持ち、目標の達成に取り組むよう努めている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	結果報告はしているがモニターはしてもらっていない。	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	目標達成の取組みはしているが成果の確認の機会はあまり持っていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルは作成済み。周知にも取り組んでいる。				毎年、定期的に法人全体で避難訓練を実施している。事業所は水害等特別の危険区域にはなっていないため、災害発生時には福祉避難所の指定を受けている。今後は、家族や地域住民も参加できる訓練などの企画が望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回は避難訓練を実施しており、1回は日中、もう1回は夜間想定で訓練している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に避難経路の確認や非常食の点検は行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	年1回は消防署の参加はあるが地域住民の参加はない。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	災害時の研修には参加するようにしているが、地域のネットワーク作りは出来ない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	現在、取り組みは出来ない。今後は取り組んでいきたい。				法人内の居宅介護支援事業所に地域住民から相談が入ることが多く、事業所に直接相談があるケースは少ない。今後、管理者はイベント時に事業所等として認知症カフェを企画することを検討している。また、近隣の福祉施設等も含めた各種関係機関との関係性を、今後さらに深めていけるような取組みを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	実際の相談はないが、相談があれば支援体制はある。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	行事に地域ボランティアの協力はあるが、施設の開放はしていない。現在検討中。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	高校の実習生は受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	機会があれば参加はしているが、連携はとれていない。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2年 7月 14日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 21名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3873300291
事業所名	グループホーム菜の花
(ユニット名)	やまぶき
記入者(管理者)	
氏名	島内 奈津美
自己評価作成日	令和 2年 6月 30日

<p>【事業所理念】</p> <p>1. 私たちは優しい介護の提供を目指します。</p> <p>2. 温かい家庭的な安心できる環境づくりをいたします。</p> <p>3. 常にご利用者の立場になる事を忘れません。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①地域との交流が増え、行事などに気軽に参加していただけるようになるー認知症カフェの定期的な開催</p> <p>②外出する機会が増えるー1週間に1度は散歩する、1ヶ月に1回以上外食の支援をする</p> <p>結果・・・①目標に向け検討はしているが、達成には至っていない。</p> <p>②毎月ではないが外出支援は実施している。ユニットにより差はあるが要望を聞きながら、以前より外出の機会は増えている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は国道近くの住宅地に位置し、近隣には小学校や幼稚園がある。母体施設が医療機関であり、小規模多機能型居宅介護や居宅介護支援事業所にも併設し、近くには系列のサービス付き高齢者向け住宅がある。広い敷地内に平屋の建物が3ユニットあり、どのユニットからも見渡せる大きな中庭がある。中庭の桜の木では、利用者がサクラソノの収穫を毎年楽しみにしている。芝生の中庭に車いすで降りると、普段とは伝わる振動が異なるのか利用者も大変喜ばれている。また、事業所内は天井が高く、明り取り窓からもよく陽が入るため、建物全体が明るく開放的な空間となっている。職員は介護未経験での入職者も複数いるが、勤務歴の長い職員が多く、性別、年齢層ともにバランスのよい職員配置となっている。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	本人が話しやすいように場所を考えて話を聞くようにしている。	○	/	○	職員は、入居時に聞き取りを行うほか、入居後も日々の会話の中で意向の把握に努めている。利用者ごとに担当の職員を決めており、新しく把握できた情報は、月1回のミーティングで職員間で共有し確認している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	申し送りや何か気づいた時は職員間で話し合うよう努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に家族に本人の状態を伝え話し合うようにしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	観察記録に記載するようにしているが、整理は出来ていない。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の生活の中で機会があるごとに本人の思いを出来る限り聞くように努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	利用開始時や家族の面会時に話す機会を持ち、家族から聞き取りを行っている。	/	/	◎	職員は入居時に利用者や家族、利用していたサービス事業所、担当していた介護支援専門員等から情報を収集している。入居後も、面会や電話連絡時に職員は家族から話を聴く機会を持つよう心がけている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	観察記録に記入して、情報共有し現状把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	意識して利用者を観察したり、個別に聞き取りした内容を情報共有し状態の把握に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	ミーティングで話し合ったり、その都度話し合うようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	24時間シートの観察記録や申し送りノートを活用し、把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	他の職種も交え、話し合う機会を持っている。	/	/	◎	職員の他、主治医や看護師、リハビリスタッフ等多職種からの意見も取り入れて情報共有している。それらの情報は日々の観察記録や日誌に記載されるほか、月1回のミーティングで職員間で共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	毎月のミーティングの時に話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	担当職員による毎月のモニタリングを行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	アセスメントを基に職員間で話し合って、作成している。	/	/	/	職員は、家族へこまめに連絡を取って日頃の様子や受診の結果を報告しており、その際に介護計画の意見も確認するようにしている。母体法人は医療機関であるため、事業所では主治医の他、理学療法士や言語聴覚士など医療従事者と密に連携が取れていることもあり、介護計画の意見をもらう機会も多い。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人や家族の意向を聞き、反映できるよう努めている。	○	/	/	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	現在の本人の状態にあった過ごし方になっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族協力が盛り込まれたプランもある。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	担当者がモニタリングを行い、ミーティングでプランの内容を振り返り、把握共有している。	/	/	/	ユニットのすべての利用者分の介護計画を抜粋し、ユニットごとに置くようにしており、職員は内容の把握と理解に努めている。日々の様子を記載している観察記録には、介護計画の内容を細かくチェックする欄を設けており、職員は毎日◎○△×などの記号を付け、達成できたかどうかの確認を行っている。また、観察記録には利用者の様子や会話の内容を記載するようにしており、職員の気づきは申し送りノートや日誌に記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	プランに沿って実践できたかは記録やモニタリングで状況を把握し話し合い、支援に繋げている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	観察記録に記入するようにしているが、すべては記入できていない。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日誌や申し送りノートに気づきを記入している。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	プランの期間や状態の変化に応じて見直ししている。	/	/	/	月1回、利用者ごとの担当職員は利用者の様子を取りまとめ、ミーティング内で他の職員の意見も踏まえてモニタリングをしている。基本的には6か月ごとに計画を見直ししており、入居時等は3か月程度で見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ミーティングで月1回は職員間で報告し合い、現状把握するようにしている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態の変化に応じてその都度、プランを見直ししているが見直しの話し合いは出来ていない。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月に1回はミーティングを行い、職員間で話し合うようにしている。	/	/	/	緊急の場合はその日の勤務職員で話し合っているが、基本的には月1回のミーティングで利用者のモニタリングを行ったり、法人からの申し送りを情報共有したりしている。また、日々の申し送りは毎日朝夕に行なわれ、内容はミーティングノート等に記録し、参加できなかった職員にも共有されている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	1人1人の意見を聞くようにし、具体的な質問で個別の意見を発言しやすいようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	日中に時間を調整し、予定も立てやすいよう月初めに調整している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	ミーティングノートを活用し、口頭でも伝えるように努めている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートは各自目を通したら、サインをするようにして情報共有の徹底に努めている。	/	/	/	申し送りノートやミーティングノートの他、日誌にも丁寧に記録されており、職員全員で情報共有ができています。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートも活用するが出来るだけ口頭で確実に申し送りできるよう努めている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	出来るだけ個別に話す機会を持つようにして、したいことを聞こう心掛けている。	/	/	/	職員は、洋服選びや買い物の際、利用者が自由に選択できるよう支援している。家事を職員と一緒にいかどうか、入浴するかどうか等、日々の生活の中で様々な場面において利用者のペースで過ごすことができるよう配慮している。週1回レクリエーションの日をつくり、職員は利用者楽しく過ごしてもらえるよう工夫している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定できるように個別に対応した声掛けを行っている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	自分の意見言ってもらえるよう心掛けてはいるが、言えない利用者もあり、十分ではないと思う。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	利用者の生活のペースに合わせて、個別の支援に努めている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	個々の利用者に合わせてながら声掛けを行い、レクなどしているが利用者の能力の差があり、十分には出来ていない。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情から気持ちを読み取るように努め、本人の意向にできるだけ沿った支援を心掛けている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	接遇の振り返りはミーティングで行い、声掛けの仕方や態度に気を付けてはいるがまだまだ不十分。	○	○	△	法人として接遇研修を実施しているが、管理者は「訪室時のノックなど、できている職員とできていない職員の差がある」と感じている。今後はより一層、利用者等へのプライバシーに配慮した支援ができるよう、職員全体の意識向上を期待したい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	声掛けの仕方やタイミングに十分注意しているが、まだ配慮が足りないと思う。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	配慮するよう努めてはいるが、不十分な場面が見られる。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	掃除時や洗濯物をしまう時は声掛け出来ているが、訪室時のノックは出来ていない。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時に誓約書を書いている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お手伝いなどの場面で感謝の言葉を伝えるようにしている。	/	/	/	職員は、利用者が精神的に不安定な時や他の利用者トラブルになりそうな時には、お互いに顔が見えない位置に座ってもらうよう配慮したり、自室で過ごせる時間を作ったりするなど、工夫した対応に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	現在の利用者は労わりあひながら、暮らせていると思う。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者間の関係性を把握し、トラブルを防ぎながら個々の役割を持って生活してもらうことで孤立した方が出ないように心掛けている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	必要時には職員がさりげなく介入している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	家族関係以外の把握は出来ていない。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人や家族からの聞き取りや日々の会話の中からの情報で把握するようにしている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	知人や友人に会ったり、馴染みの場所には行けていない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来棟された際には明るく対応し、話しやすい雰囲気作りを行い、ゆつくりと過ごせるよう配慮している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナウイルス予防対策で外出禁止となっている。お天気の良い日は中庭を散歩したり、日光浴している。	○	×	○	事業所の中庭は大変広く、十分な散歩スペースがあるため事業所の外へ散歩に出掛けることは少ないが、重度の利用者も車いすで中庭の芝生まで出て日光浴をするなど、気分転換をしている。毎年、中庭の桜の木でサクラボを収穫しており、利用者は楽しみにしている。移動スーパーに来てもらったり、利用者から希望があれば、職員は利用者と一緒に近隣のスーパーに出かけたりすることもある。現在は、新型コロナウイルス感染症対策で外出を控えているが、定期的に外出行事を企画しており、今後は利用者の希望で外出に行く機会を増やしていく予定である。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援は出来ていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	状態を見ながら中庭に出て過ごすこともある。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	本人の希望や意見を聞き近所のスーパーに買い物行ったり、美容室に行かれることがあるがそれ以外は出来ていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症についてはミーティングでは話し合い、理解を深め、個別の対応について具体的に話合っている。				職員によって多少差があるものの、利用者が一人できそうなことは介助し過ぎず、寄り添い見守る支援を行っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	状態の違いもあり、全員は出来ていない。状態の把握はしているが、維持向上についての取り組みは十分ではない。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事はして頂き、出来ない事は一緒にしている。	○		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	生活歴を踏まえ、役割を考えて提供しているが介護度や認知症の程度により把握しにくい利用者が多い。				訪問調査日には、男性利用者が配達された食材を各ユニットに運んでいる姿を見ることができた。その他の利用者も調理の下ごしらえをしたり洗濯物を畳んだり、可能な範囲で職員と一緒に手伝いしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	出来る限り能力に応じた役割を持って頂いているが、出来ない方についてはあまり取り組めていない。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の行事にはあまり参加できていない。				

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	本人の好みやその人らしさを把握できない利用者が多い。				重度の利用者であっても、職員は朝の着替えを必ず支援している。また、髪型についても希望があれば、職員と一緒に美容室へ出かけたり、好みのスタイルを確認して職員が散髪したりしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	自分でできる方はされているが認知が進んでいて、好みを把握出来にくい利用者が多い。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	個々の状態に応じて出来る範囲はしてもらっている。自己決定しにくい利用者は職員間で話し合って対応している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	持ち物や衣服の趣味等によりおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にささりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげない声掛けで支援するようにしている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族の協力で馴染みの美容室にいけている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	本人らしい色や好みを家族に聞き取り入れるようにしている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	メニューなどを伝え食べたいという意欲に繋がるよう支援している。				法人内の栄養士が献立を立てているため、利用者や職員の希望で急な変更は難しいが、バランスの取れた季節感のあるメニューとなっている。年に数回ある行事食の際には、事業所で献立を作成するため、利用者から出された人気メニューを作ることにしている。調理は毎食ユニットで行い、刻み食等の対応もしている。利用者は使い慣れた食器を使用しており、職員と一緒に食事をしていないが利用者のそばに寄り添い、美味しく食べられるよう声をかけたり介助をしたりしている。訪問調査日には、食べ終えた利用者が下膳をしている様子が見られた。また、重度の利用者も食事の際には、リビングで一緒に食べるようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	後片付けについては出来る方に手伝ってもらっている。簡単な調理は本人の状態に応じてたまにしている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	出来る事を状態を見てしてもらっているが、毎日難しい。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居時に家族から聞き取りし、情報収集に努めている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	行事食や季節のメニューもあり、地域特有のメニューも取り入れている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	個々の状態に合った食形態にしている。状態が変化することに状態に応じて変えている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	家で使用していた物を持ってきてもらっており、状態に応じて介護用のスプーンなど使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食べてはいないが介助や見守りにてさりげなくサポートできるように努めている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	メニューを伝えたり、皆と一緒に会話しながら食べる事で楽しい雰囲気作りを努め、食事介助が必要な方には食事内容など具体的に説明しながら、何を食べているか本人が分かるように支援している。	○		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	配膳する量やカロリーは同じだが、水分は目標を設定し摂取できるよう内容やタイミングなど工夫しながら対応している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事の時間をずらしたり、飲み物を他の物に変えたりして取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	栄養士が立てる献立はカロリーやバランスを考慮しており、食材や調味料まで分量が記載してあるのでその分量通りに作っている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材はメニューに沿ってほぼ毎日届けられ、食器類は毎日消毒を徹底している。				

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	必要性や重要性は理解し、毎食後の口腔ケアに努めている。				居室内に洗面台があり、食後に歯磨きをするよう職員は利用者に声をかけている。自分で歯磨きができる利用者には、職員が口腔内の細かい部分まで確認できていないが、月1回歯科医の往診があり、状況に応じて診てもらっている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	自分でできる方は見守りと確認、出来ない方は介助時に確認するようにしている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	月1回は歯科医の訪問を受け、ケアの仕方を相談している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	自分で出来る方は適切に出来るよう見守りしている。出来ない方は職員管理を行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	毎食後に声掛け誘導を行い、清潔を保てるよう支援している。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	変化がある時は家族に連絡し、受診を勧めたり、訪問歯科の許可をもらっている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	布パンツの方も紙パンツやおむつを使用している方も定期的に声掛けや誘導を行い、トイレに座って排泄できるようにしている。				職員は、ユニットに2か所あるトイレが使用できることを基本に、タイミングを見ながら声をかける等、工夫した支援をしている。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいるが、日中はトイレを使用できるよう声をかけている。介助方法の変更や工夫等についてはミーティングで職員間で検討され、情報共有されている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	職員間で話し合い、理解に努めている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表に記録し、把握に努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ミーティングで職員全員で話し合い、状態に応じた見直しを検討している。		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給や入浴時の腹部マッサージなど取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	記録を基にパターンを把握したり、行動開始のタイミングで声掛け誘導するようにしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	本人の羞恥心を重視し、家族に相談はしているが本人とは話し合いはできていない。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	1人1人の状態に合わせて使い分けをしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	冷たい牛乳や水分を多くとってもらえるよう内容も個人の好みに応じて工夫している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	本人の希望に添えるよう同性対応や時間帯など工夫して対応している。		◎	◎	車いすの利用者も多くなったが、職員が2人体制で介助するなどの工夫をして、できるだけ浴槽に浸かってもらえるよう支援している。入浴が億劫になっている利用者もいるが、声をかける時間帯やタイミングを変えてみたり、対応する職員を代えたりしながら気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	本人のペースで入浴して頂けるよう声掛けている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人が出来る範囲を把握し、出来る事はしてもらながら入浴してもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒否がある時は個別で話を聞いたり、時間を空けて再度声掛けを行うようにしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルを測定し、日中の状態も確認をおこない、入浴後は水分補給を行い、変化がないかを確認している。				

愛媛県グループホーム菜の花

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録し、申し送りや日中の様子も含め、状態を把握するようにしている。	/	/	/	睡眠導入剤等を処方されている利用者もいるが、職員は翌朝の状態や日中の様子など細かく主治医に報告し、減薬等の調整をしてもらっている。 ◎ 夜間も落ち着かない様子でリビングや廊下を歩く利用者もいるが、職員はそと寄り添って支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を増やすよう声掛けしたり、レクや日光浴などでリズムを整えるように工夫している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の眠気の強い方は主治医に日々の状態を報告し、処方相談し、指示に従っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	家庭で過ごすのと同じように休息をとってもらえるように、本人に聞き取りながら対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	出来る方は居て対応もできるが、実際に電話をかけた時、手紙を書く支援もしていない。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	今は出来ないが今後は手紙を出せるように文選やハガキの提供を検討している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	いつでも掛けられるようにしているがかけられなかったりすることがない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	手紙は届いたら本人に渡しているが、返信の支援はしていない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	家族の理解や協力は得られている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解していると思う。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	買い物外出時には自分欲しいものを購入してもらっている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	移動スーパーは利用しているが店舗に行くことについては具職員同行する以外の働きかけは行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	保管は施設の金庫にしているが、希望に応じて買い物時出来る方は自分で支払ったり、ATMでおろしたりしてもらっている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	面会時や電話連絡などで使い道を相談している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族の同意で預り金を管理しており、金庫の鍵は管理者が管理し、入出金の際は管理簿に記入し残金はWチェックを行っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	必要に応じて出来るだけ本人や家族の意向に沿えるようにその都度話し合いながら取り組んでいる。	○	○	基本的に併設の医療機関以外への受診は、家族の付き添いをお願いしているが、状況によっては職員が同行支援を行うこともある。また、職員はできる限り利用者や家族の意向に沿えるよう工夫したいと考えている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	幹線道路沿いのため、安全面を考慮し、外玄関には常に施錠させて頂いている。	○	○	△	外玄関は施錠されているため、事業所へ気軽に出入りができる状態とは言い難い。ユニットの入口は整頓されており、中庭の花や緑が見えて明るい雰囲気である。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	生花を飾ったり、壁面に季節の飾りをして、家庭的で心地よい環境作りをしている。	○	○	○	リビングの天井は高く広々としており、高い位置にある明り取り窓のおかげで陽がよく入り、とても明るい。職員が毎日掃除をしており、全く臭気は感じられない。職員手づくりのトールペイント(絵の具を塗った木製品)の作品が飾ったり、ピアノを置いたりするなど、家庭的な雰囲気になっている。大きな掃き出し窓からは中庭の緑が見渡せ、開放感のある空間である。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の清掃と日々の定期的な換気で清潔な環境に努めている。	△	△	△	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	花の香りや調理の匂いなどまじかで見られる空間になっている、	△	△	△	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	フロアにはソファもあり、くつろげる場所の確保と配置換えなど工夫している。	△	△	△	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレはフロアから見えにくく、脱衣場は使用時は見えないようにドアを閉めるようにしている。	△	△	△	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅から使い慣れたタンスや椅子など持参してもらっている。	○	△	○	居室には一通りの家具は揃えてあるほか、利用者は馴染みの物を自由に持ち込みことができる。利用者は使い慣れた家具や仏壇など思い思いのものを持ち込み、心地よい空間となるよう配置も工夫されている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや居室の表示やフロア内の手すり設置、車椅子自走の出来る環境作りなど工夫している。	△	△	○	トイレや浴室には表示があるほか、居室入口には表札をかけており、利用者が迷わないよう工夫されている。それらの表示は、職員手づくりのトールペイントの作品を使用しているため、家庭的な雰囲気になっている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	札や張り紙で表示を作り、混乱しないよう場所が分かるようにしている。	△	△	△	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌や新聞・地方紙などフロア内のテーブルやいつでも手の届くところに置いている。	△	△	△	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	職員は理解しており、外玄関は施錠しているがユニットの玄関は日中はいつも開いており、利用者は自由に出入りしている。	×	×	△	外玄関は防犯面から常時施錠されているが、ユニットの入口は出入りが自由になっている。利用者には自由に移動してもらえるよう職員がそっと付き添い支援をしている。現在は、新型コロナウイルス感染症対策として、あまり他のユニットへ利用者が移動しないよう配慮している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	自由な暮らしの理解はしているが安全上、施錠し話し合いはしていない。	△	△	△	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	近隣の理解や協力は得られておらず、施設外に自由に出る事は出来ない。	△	△	△	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に聞き取りした情報をまとめたものを個人ファイルに挟みいつでも見れるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタル、水分、食事量、排泄、睡眠状態を記録し、変化は申し送りに記載して早期発見に努めている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療機関とは常に連携をとっており、個々の利用者の変化を報告し、常に情報交換を行い適切な早期対応に努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人、家族の意向を聞き受診してもらっている。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	主治医と連携をとっており、いつでも適切な医療を受けられる環境が出来ている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後、必ず家族に連絡報告し、申し送り職員間でも情報共有出来るようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報をまとめたものを作成して渡している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	ケアマネジャーが病院と連携を取り、状態確認を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	協力医療機関の連携室主催の研修に参加して関係作りに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力医療機関の看護職との連携はとれており、相談しやすい環境になっている。主治医にも相談できる環境にある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間体制で連絡でき、対応可能な体制が整っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタル測定や健康状態を確認し、小さな変化も報告するようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬情報はいつでも確認できる場所においてあり、理解したうえで処方の仕分けもやっている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れを防ぐため、薬棚から二人対応で薬を出し、内服前にも2人で確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	変化がある時には必ず医療機関に連絡報告し、指示を仰ぐようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	定期的診察時には変化や状態について個別で報告するようにしている。				

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時には必ず主治医の診察を受け、家族の意向を確認し、状に変化があった時も主治医から説明があり、家族の意向を再度確認している。	/	/	/	事業所では終末期や重度化の支援について、利用者や家族の意向をきちんと把握した上で、主治医等多職種でしっかりと検討をするようにしている。事業所の居室で最期まで看取することは少なく、併設の医療機関へ移る場合がほとんどではあるが、利用者や家族の意向に沿えるよう職員間で話し合いを重ねている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	必要に応じて医師や看護師に相談し、本人家族にとってどうしたらよいか検討しながら方針を共有するようにしている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	力量については把握しており、思いは聞いてもらって支援について方針を検討するようにしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	対応可能なことは伝えるようにして家族の理解を得たうえで対応するようにしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療機関と密に連絡を取りながら、体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	その都度、話を聞くようにしている。職員からの声掛けや対応など十分に気を付けるようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	併設の院内勉強会に参加し、学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	訓練はしていないがマニュアルをいつでも見れるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビや新聞、併設の病院の申し送り等で最新情報を取り入れるようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	病院からの情報や指示のもと、予防対策の対応をとれるようにしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員の出勤時の検温や手洗いを毎日行い、面会者にも検温や消毒、マスク着用にて感染予防に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にお話をするよう心掛けている。				事業所では利用者の病院受診後の報告など、職員から家族への連絡をこまめに行っており、利用者の写真がたくさん掲載された便りも作成し郵送している。今後は、職員の異動や入退職の報告についても、便りに盛り込むことなどを検討し、家族への伝達方法を工夫することを期待したい。また、避難訓練等のこれまで家族が参加することを企画していなかった行事にも、家族が参加できることの検討を望みたい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には居室または対話室を設け、個別でゆっくりとお話し出来るようにしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	行事の案内を出し参加を呼び掛けているが参加は少ない。		○	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	菜の花だよりや毎月、その月の状況を記載し家族に送付している。		○	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	気になることや聞かれたことはいつでもお伝えできるようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	より良い関係が維持できるよう対応に努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	×	行事の報告は菜の花だよりやお手紙で報告しているが職員の異動や設備については特に報告していない。		×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	現在は出来ていないが今後は取り組んでいきたい。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	×	利用差一人一人の認知の症状により起こるリスクの説明はしているが対応についての話し合いは出来ていない。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時は些細な会話も大切にしており、必ず声をかけ明るい対応に努め、家族が相談しやすい環境作りを努めている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	管理者やケアマネ同席で説明し、同意を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	状況に応じて家族の意向に沿えるような対応している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	金額の変更があった場合は文書にて説明し同意を得て、控えも渡している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	現在は運営推進会議に民生委員や地域の方に参加してもらい、行事や研修の報告、施設内の様子を見てもらい理解を図っている。	/	○	/	外玄関が施錠されていることも影響するのか、事業所には地域住民が気軽に立ち寄ってくれる関係性には至っていない。地域住民等からは地域行事への誘いも多くあり、幼稚園児の訪問など交流をしている。管理者は、「今後さらに外出の機会を増やし、地域との交流を増やしていきたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	近隣の運動会には参加させてもらっている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	地域との交流はない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	地域の人の訪問はない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	挨拶する程度で日常的なおつきあいはない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	介護相談員の受け入れや行事の際は地域のボランティアの方にも参加し協力してもらっている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	具体的には地域資源の活用はできない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近隣の学校との交流は出来ている。町内の飲食店やスーパーは利用している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	施設の活動内容(行事や研修など)は報告しているが、外部評価や目標達成計画と取り組み状況については報告していない。	×	/	◎	運営推進会議では、毎回順番に利用者と家族に参加してもらっており、地域からの出席率も高い。出席者から外玄関の施錠に関することなどの質問も出され、会議内の意見交換も活発になされている。今後は、日頃の事業所の活動報告に加え、外部評価についても報告を行うなど、各種の課題について具体的な意見を参加者に求めてみるような試みにも期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	施設の活動内容(行事や研修など)は写真などで報告しているが、外部評価や目標達成計画と取り組み状況については報告していない。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	会議では現況報告を行い、各参加者一人一人に意見を聞き、サービスに活かすように努めている。	/	○	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマは決めていない。参加者の都合は出来るだけ調整し出席しやすい日程や時間帯にしている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	公表はしていないが閲覧できるようにはしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事務所入り口や目につくところに理念を張り出しており、実践できるよう努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	菜の花だりに理念を載せている。	x	x		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	研修計画があり、スタッフの力量に応じた研修を促している。				代表者は、職員のストレス軽減などの特別な取組みを行っているわけではないが、法人全体での忘年会や納涼会を毎年開催するなど、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	スキルアップできるよう助言などしている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	やりがいが感じられるような職場環境になっていると思う。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	x	代表者との交流は出来ておらず、交流の機会作りをしたい。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	x	取組は出来ていない。	○	◎	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	△	ミーティングや日々のケアの中で言葉使いや対応に気を付けるよう話合ったり指導したりしている。				定期的に法人として虐待防止等の研修会を実施している。不適切なケアは見過ごされることなくミーティング等の機会に検討され、職員同士で互いに意識を高め合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の職員同士の会話やミーティングで話し合うようにしている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切な言葉遣いや対応があった時はその都度、すぐに話合っている。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	代表者から直接の注意はないが管理者からは日常的に助言や注意がある。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修の参加はできていない。ミーティングで話し合うようにしている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ミーティングや日々の会話の機会を持ち、具体的に話合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	現在、拘束対象者は居ないが、状況の変化がある場合、その都度話合っている。				

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	職員により理解の度合いにバラつきがある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば対応できる体制はある。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要時には個別に対応し、相談に応じる体制はある。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルがあり、周知できている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	併設の病院の指導により実践で身につけている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	活用はしているが、まだまだ少なく今後も継続した取り組みが必要。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	1人1人の状態を把握しリスク管理に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情はすぐに報告し、迅速で適切な対応ができるように努めている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って対応するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかな回答が出来るよう早めに報告し、改善について話し合い、前向きで良好な関係作りに努めるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置している。運営推進会議でも意見を聞いている。			◎	職員は利用者の意向を日々の支援の中で聞き取るよう配慮しており、外出や食事のメニューなど聞き取れた意見はミーティングで職員間で検討している。家族からの意向や要望はあまり多くは引き出せていないものの、職員は面会時や電話連絡時にしっかりと時間を取るよう心がけている。家族からの要望については、苦情等の扱いで職員は丁寧に対応している。また、職員は各ユニットのリーダーや管理者に相談することができており、内容によっては事務長や理事長にも報告し対応している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱は玄関先に設置している。面会時や運営推進会議などで意見を聞いている。また、面会時には個別で意見を聞くようにしている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約時には行っているがそれ以降は行っていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	△	代表者は毎日ではないがユニットの訪問はあるが、直接話す機会はない。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティング時に意見の提案を職員に促し、支援に繋がるように努めている。			◎	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回は自己評価を行い、取り組んでいる。				運営推進会議において外部評価に関する報告が十分に伝わっていないのか、アンケート結果等からは家族や地域住民の外部評価への理解度が低い様子である。今後は、さらに積極的な報告や意見交換などの取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	課題を明確にし、意識付けに努めている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標に向け、実践できるように取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果の報告はしている。	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	取組はしているが確認は出来ていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し周知に努めている。				毎年、定期的に法人全体で避難訓練を実施している。事業所は水害等特別の危険区域にはなっていないため、災害発生時には福祉避難所の指定を受けている。今後は、家族や地域住民も参加できる訓練などの企画が望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回は避難訓練を実施しており、1回は日中、もう1回は夜間想定で訓練している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に避難経路の確認や非常食の点検は行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	年2回の避難訓練で消防署の参加はあるが、地域住民や近隣施設との連携はとれていない。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	災害時の研修には参加するようにしているが、地域のネットワーク作りは出来ていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域の方への発信は出来ていない。				法人内の居宅介護支援事業所に地域住民から相談が入ることが多く、事業所に直接相談があるケースは少ない。今後、管理者はイベント時に事業所等として認知症カフェを企画することを検討している。また、近隣の福祉施設等も含めた各種関係機関との関係性を、今後さらに深めていけるような取組みを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば支援する体制はある。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	行事の際には交流の場として活用している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	高校の福祉科の実習の受け入れはある。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	連携も協働も出来ておらず、地域のイベント参加も出来ていない。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2年 7月 14日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 21名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3873300291
事業所名	グループホーム菜の花
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏名	宮本 美和
自己評価作成日	令和 2年 6月 30日

<p>【事業所理念】</p> <p>1. 私たちは優しい介護の提供を目指します。</p> <p>2. 温かい家庭的な安心できる環境づくりをいたします。</p> <p>3. 常にご利用者の立場になる事を忘れません。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①地域との交流が増え、行事などに気軽に参加していただけるよう一認知症カフェの定期的な開催</p> <p>②外出する機会が増える→1週間に1度は散歩する、1ヶ月に1回以上外食の支援をする</p> <p>結果・・・①目標に向け検討はしているが、達成には至っていない。</p> <p>②毎月ではないが外出支援は実施している。ユニットにより差はあるが要望を聞きながら、以前より外出の機会は増えている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は国道近くの住宅地に位置し、近隣には小学校や幼稚園がある。母体施設が医療機関であり、小規模多機能型居宅介護や居宅介護支援事業所にも併設し、近くには系列のサービス付き高齢者向け住宅がある。広い敷地内に平屋の建物が3ユニットあり、どのユニットからも見渡せる大きな中庭がある。中庭の桜の木では、利用者がサクラソボの収穫を毎年楽しみにしている。芝生の中庭に車いすで降りると、普段とは伝わる振動が異なるのか利用者も大変喜ばれている。また、事業所内は天井が高く、明り取り窓からもよく陽が入るため、建物全体が明るく開放的な空間となっている。職員は介護未経験での入職者も複数いるが、勤務歴の長い職員が多く、性別、年齢層ともにバランスのよい職員配置となっている。</p>
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える								
(1) ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>◎</p> <p>△</p> <p>△</p> <p>○</p>	<p>入居時の情報や日々の会話の中で本人の希望を聞くようにしている。</p> <p>表情や動作から見極めたり、職員間で話し合うよう努めている。</p> <p>面会に来られた時に話を聞いている。</p> <p>言葉や気付きを記録ノートに記入するようにしているが思いの整理は不十分。</p> <p>月1回のミーティングで振り返りの作業をしている。</p>	○	/	○	職員は、入居時に聞き取りを行うほか、入居後も日々の会話の中で意向の把握に努めている。利用者ごとに担当の職員を決めており、新しく把握できた情報は、月1回のミーティングで職員間で共有し確認している。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>△</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>主に利用開始時にキーパーソンから話を聞くようにし、それ以後は面会時などできるだけ話を聞くように努めている。</p> <p>申し送りノートや観察記録に記入し情報共有し、現状を把握するように努めている。</p> <p>観察記録に記録し、申し送りで把握するようにしている。</p> <p>利用者に変化がみられた時はその都度職員間で話し合うようにしている。</p> <p>観察記録は24時間シートを活用し、申し送りで情報共有し把握するようにしている。</p>	/	/	◎	職員は入居時に利用者や家族、利用していたサービス事業所、担当していた介護支援専門員等から情報を収集している。入居後も、面会や電話連絡時に職員は家族から話を聴く機会を持つよう心がけている。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>日々は出勤した職員で話すようにし、毎月のミーティングでも話し合うようにしている。</p> <p>毎月のミーティングで話し合うようにしている。</p> <p>ミーティングで各職員のモニタリングの内容を確認し、今現在各利用者について何が課題なのかを話合っている。</p>	/	/	◎	職員の他、主治医や看護師、リハビリスタッフ等多職種からの意見も取り入れて情報共有している。それらの情報は日々の観察記録や日誌に記録されるほか、月1回のミーティングで職員間で共有している。

愛媛県グループホーム菜の花

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	アセスメントを元に行っている本人らしさが反映するような計画になっていると思う。				職員は、家族へこまめに連絡を取って日頃の様子や受診の結果を報告しており、その際に介護計画の意見も確認するようにしている。母体法人は医療機関であるため、事業所では主治医の他、理学療法士や言語聴覚士など医療従事者と密に連携が取れていることもあり、介護計画の意見をもらう機会も多い。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人や家族の意向をできるだけ聞き取り、またリハビリ担当者の意見も聞きながらいろんな意見を反映させて作成していると思う。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	以前と同じような暮らし方は難しいが今のその方の状態に応じた内容になっていると思う。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の協力も少しではあるがプランに盛り込まれている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	月1回のミーティングで話し合い職員間で共有している。			◎	ユニットのすべての利用者分の介護計画を抜粋し、ユニットごとに置くようにしており、職員は内容の把握と理解に努めている。日々の様子を記載している観察記録には、介護計画の内容を細かくチェックする欄を設けており、職員は毎日◎○△×などの記号を付け、達成できたかどうかの確認を行っている。また、観察記録には利用者の様子や会話の内容を記載するようにしており、職員の気づきは申し送りノートや日誌に記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	観察記録を基に毎月支援内容の評価を行っている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	観察記録に記載するように努めているがすべては書けていない。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日誌や申し送りノートに記入するようにしている。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	ミーティングで話し合い、見直しするようにしている。			◎	月1回、利用者ごとの担当職員は利用者の様子を取りまとめ、ミーティング内で他の職員の意見も踏まえてモニタリングをしている。基本的には6か月ごとに計画を見直ししており、入居時等は3か月程度で見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月のミーティングで確認するようにしている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	大きな変化が生じた場合は家族や関係者と話し合い、現状に応じたプランを作成している。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	毎月のミーティングや必要に応じて話合っている。			◎	緊急の場合はその日の勤務職員で話し合っているが、基本的には月1回のミーティングで利用者のモニタリングを行ったり、法人からの申し送りを情報共有したりしている。また、日々の申し送りは毎日朝夕に行なわれ、内容はミーティングノート等に記録し、参加できなかった職員にも共有されている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	いろいろな意見が出るよう個別で聞くようにしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	勤務時間内で話し合いできる時間帯を選び、日時も都合を聞きながら調整している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	ミーティングノートを作成し、内容を確認できるようにしている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	日誌や申し送りノートを確認してサインし情報共有に努めている。			◎	申し送りノートやミーティングノートの他、日誌にも丁寧に記録されており、職員全員で情報共有ができています。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝夕の申し送りを必ず行い情報を伝えるようにしている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	個別に声掛けを行い、したいことを聞くようにしている。	/	/	/	職員は、洋服選びや買い物の際、利用者が自由に選択できるよう支援している。家事を職員と一緒にやるかどうか、入浴するかどうか等、日々の生活の中で様々な場面において利用者のペースで過ごすことができるよう配慮している。週1回レクリエーションの日をつくり、職員は利用者楽しく過ごしてもらえるよう工夫している。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	自己決定できるような声掛けを行っている。	/	/	◎		
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者の思いをくみ取り、納得できるように過ごしてもらい見守りを行っている。	/	/	/		
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	個々のペースに合わせた対応で支援している。	/	/	/		
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	レクなどの工夫やお手伝いなどの声掛けの工夫を行っている。	/	/	◎		
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	表情を見極め、支援に努めているが不十分ではないかと思う。	/	/	/		
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	接遇の研修にも参加して声掛け等十分に気を付けている。	/	○	○	法人として接遇研修を実施しているが、管理者は「訪室時のノックなど、できている職員とできていない職員の差がある」と感じている。今後はより一層、利用者等へのプライバシーに配慮した支援ができるよう、職員全体の意識向上を期待したい。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	声掛けの仕方等不適切と思われる事もあり、ミーティングで振り返りを行い、話し合っている。	/	/	/		△
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	声掛けに工夫を行いながら、介助している。	/	/	/		/
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	声掛けやノックを行っているが不十分どころもある。	/	/	/		△
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	△	職員の認識が低いため、ミーティングで理解できるように努めている。	/	/	/		/
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	洗濯干しや洗濯たたみなどの日常生活の中での活動と一緒にやり、感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	職員は、利用者が精神的に不安定な時や他の利用者トラブルになりそうな時には、お互いに顔が見えない位置に座ってもらよう配慮したり、自室で過ごせる時間を作ったりするなど、工夫した対応に努めている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士で声を掛け合ったり、いたわりながら暮らせている。	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	孤立状態やトラブルにならないよう職員がそばで見守り、輪の中に入れるようにしている。	/	/	/		◎
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	様子を見ながら職員が介入し、その場で解決できるようにしている。	/	/	/		/

愛媛県グループホーム菜の花

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	×	家族以外は把握できていない。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人や家族からの聞き取りをするように努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	家族以外の方との交流が来ている利用者は居ない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	来棟された時には居室でゆっくりと過ごせるようにしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナウイルス感染予防対策で今は外出できないが普段から外出の機会は少ない。中庭を利用し日光浴などしている。	○	×	○	事業所の中庭は大変広く、十分な散歩スペースがあるため事業所の外へ散歩に出掛けることは少ないが、重度の利用者も車いすで中庭の芝生まで出て日光浴をするなど、気分転換をしている。毎年、中庭の桜の木でサクラノボを収穫しており、利用者は楽しみにしている。移動スーパーに来てもらったり、利用者から希望があれば、職員は利用者と一緒に近隣のスーパーに出かけたりすることもある。現在は、新型コロナウイルス感染症対策で外出を控えているが、定期的に外出行事を企画しており、今後は利用者の希望で外出に行く機会を増やしていく予定である。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	来っていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	本人の体調を見ながら日光浴をするようにしている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	希望は把握しているがなかなか実現できていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	個々の認知症状は理解できており、状態の変化に応じて支援の内容を具体的に話合うようにしている。				職員によって多少差があるものの、利用者が一人できそうなことは介助し過ぎず、寄り添い見守る支援を行っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	全員は来っていないが、個別で日常生活の中での生活リハビリに取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	出来る事はして頂き、出来ない事は一緒にしている。	○		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	脳トレや室内レクやお手伝いなどの役割の提供により、能力を維持したり引き出すよう努めている。				訪問調査日には、男性利用者が配達された食材を各ユニットに運んでいる姿を見ることができた。その他の利用者も調理の下ごしらえをしたり洗濯物を畳んだり、可能な範囲で職員と一緒に手伝いをしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	洗濯たたみや洗濯干し、みそ汁作り等出来る範囲で役割を持って頂き、張り合いのある日々を支援するようにしている。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の中での役割は難しいが小学校の運動会の見学など少しでも地域に出て楽しめるよう支援している。				

愛媛県グループホーム菜の花

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人の好みを聞きながら、洋服選びを行っている。				重度の利用者であっても、職員は朝の着替えを必ず支援している。また、髪型についても希望があれば、職員と一緒に美容室へ出かけたり、好みのスタイルを確認して職員が散髪したりしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	自分でできる方は見守りし、出来ない方は一緒に選ぶように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員間で話し合っ、本人の気持ちを考えながら支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時には特におしゃれを楽しめるように支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	さりげなく声掛けを行い、整容や更衣などの乱れを治せるように努めている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	施設内での対応だけになっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	家族が持参された洋服など選び、いろんな服を着て本人らしさが出せるよう支援している。			◎	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の楽しみを理解して支援している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎		食器洗いや下膳、お盆拭きなど出来る利用者には手伝ってもらうようにしている。			○		
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎		みそ汁作りや食器洗い、テーブル拭き等利用者の力の発揮できるように支援している。					
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○		入居前に本人や家族からの聞き取りで把握するようにしている。					
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○		栄養士の献立により調理している。季節感のある旬の食材なども取り入れられている。			◎		
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○		個々の状態に合った食形態や盛り付けに気を付けており、ミキサー食や刻み食も対応している。また、油物禁止の利用者には代わりに煮物で対応している。					
g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○		入所時、本人が家で使用していた物を持参してもらっている。			◎		
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○		一緒に食事していないが介助や見守りしながら必要な支援を行っている。			○		
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○		配膳前には全員が席についており、お茶を飲み会話しながら食事を待っている。	○		◎		
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○		栄養士が立てたメニューで栄養バランスはとれており、水分も多く取れるように対応している。					
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○		食事が少ない利用者には主治医に報告相談し、栄養補助食品等の処方してもらったり水分補給については回数を増やすなどしている。					
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○		献立は栄養士が立てており、一人分の分量が書いてあり偏りがないよう分量通りの調理に努め、摂取してもらっている。			◎		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	△		食器乾燥機の活用や夜間は調理器具もハイター消毒している。					

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性は理解したうえで口腔ケアの支援は毎食後行っている。	/	/	/	居室内に洗面台があり、食後に歯磨きをするよう職員は利用者に声をかけをしている。自分で歯磨きができる利用者には、職員が口腔内の細かい部分まで確認できていないが、月1回歯科医の往診があり、状況に応じて診てもらっている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	自分でできない方に関しては介助時に確認しているが自分でできる方の確認は不十分。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	月1回歯科医の訪問があり、口腔ケアの相談をしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	出来ない方は介助している。出来る方は声掛けと見守り支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後の声掛け誘導を行い、利用者の能力に応じた支援を行っている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	変化があった場合には家族に連絡報告し、歯科受診や訪問歯科診療を勧めている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。	/	/	/	職員は、ユニットに2か所あるトイレが使用できることを基本に、タイミングを見ながら声をかける等、工夫した支援をしている。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいるが、日中はトイレを使用できるよう声をかけて行っている。介助方法の変更や工夫等についてはミーティングで職員間で検討され、情報共有されている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	話し合いにより理解できている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表に記入して把握するようにしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	モニタリングの活用やミーティングで話し合い個々の状態に合った支援を行っている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給の促しや入浴時には湯船につかってもらっている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	チェック表を活用し定期的に声掛け誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	日中と夜間での使い分けは出来ているが、本人の好みではない。家族との話し合いもしていない。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	本人の能力に応じた対応をしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	水分を多くとってもらい、体操や軽い運動など工夫している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	声かけし本人の希望を聞きながら、希望に添えるように入浴してもらっている。	◎	/	◎	車いすの利用者も多くなったが、職員が2人体制で介助するなどの工夫をして、できるだけ浴槽に浸かってもらえるよう支援している。入浴が億劫になっている利用者もいるが、声をかける時間帯やタイミングを変えてみたり、対応する職員を代えたりしながら気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	本人のペースに合わせた支援を行っている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	声掛けと見守りでできない部分を見極め、出来ない部分を介助している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	声掛けの仕方を工夫し、入浴準備から一緒にしたり、タイミングをずらして声掛けするようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	日中の状態を確認し入浴前にはバイタル測定を行っている。入浴後は水分補給を行い状態の確認もしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録を取り、申し送りで状態を把握するようにしている。	/	/	/	睡眠導入剤等を処方されている利用者もいるが、職員は翌朝の状態や日中の様子など細かく主治医に報告し、減薬等の調整をしてもらっている。 ◎ 夜間も落ち着かない様子でリビングや廊下を歩く利用者もいるが、職員はそっと寄り添って支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の声掛けやレクを行いながら、起床時間を増やし生活リズムを整えるよう工夫している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	本人の状態を報告し、主治医と相談しながら指示に従っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由に安める環境づくりをしている。介助が必要な方は希望を聞き、状態を見ながら休んでもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	出来ていない為、今後取り組んでいきたい。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	字を書く練習を行っているので、今後は手紙を書けるよう支援していきたい。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	電話したいと言われる方がいない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	手紙が届く利用者が居ない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族の理解や協力は得られている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解は出来ていると思う。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	移動スーパーを利用し自分の欲しい物を買ってもらっている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	特に説明はしていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談し個別の対応をしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	必要に応じて個別に対応している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	家族と相談し小額を金庫で預かり、預かり簿に記入し出し入れがあった時には2人対応で残金を確認している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	出来る限り家族の意向に沿えるよう取り組んでいる。	○	/	○	基本的に併設の医療機関以外への受診は、家族の付き添いをお願いしているが、状況によっては職員が同行支援を行うこともある。また、職員はできる限り利用者や家族の意向に沿えるよう工夫したいと考えている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	安全上外玄関には施錠させてもらっている。特に工夫はしていない。	○	○	△	外玄関は施錠されているため、事業所へ気軽に出入りができる状態とは言い難い。ユニットの入口は整頓されており、中庭の花や緑が見えて明るい雰囲気である。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気を心がけ、明るく季節の花や壁飾りを利用者と一緒で作成し飾っている。	○	○	○	リビングの天井は高く広々としており、高い位置にある明り取り窓のおかげで陽がよく入り、とても明るい。職員が毎日掃除をしており、全く臭気は感じられない。職員手作りのトールペイント(絵の具を塗った木製品)の作品が飾ったり、ピアノを置いたりするなど、家庭的な雰囲気になっている。大きな掃き出し窓からは中庭の緑が見渡せ、開放感のある空間である。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	フロアや居室内の掃除、定期的な換気、ポータブルトイレの清掃等行い、清潔を心がけている。	/	/	/		◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	中庭の草花が見えるよう座席の配置を配慮し、テレビを付けたままにするなど家庭的な雰囲気でも生活感が出るよう心掛けている。	○	/	/		/	◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	フロアにはソファもあり、利用者同士でくつろげるようにしている。	○	/	/		/	/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	建物の構造上、トイレも浴室も見えない作りになっている。	○	/	/		/	/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので生活して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に家族にお願いし使い慣れたものを持ってきてもらっている。	○	/	/	居室には一通りの家具は揃えてあるほか、利用者は馴染みの物を自由に持ち込みことができる。利用者は使い慣れた家具や仏壇など思い思いのものを持ち込み、心地よい空間となるよう配置も工夫されている。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	△	安全な移動のための手すりや設置され、バリアフリーとなっている。	/	/	/	○		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	居室やトレイが分かるよう表示がされている。	/	/	/	トイレや浴室には表示があるほか、居室入口には表札をかけており、利用者が迷わないよう工夫されている。それらの表示は、職員手作りのトールペイントの作品を使用しているため、家庭的な雰囲気になっている。		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	テーブルにはおいていないが、すぐに手の届くところに置いてある。	/	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	理解はしていると思う。	×	×	△	外玄関は防犯面から常時施錠されているが、ユニットの入口は出入りが自由になっている。利用者には自由に移動してもらえよう職員がそっと付き添い支援をしている。現在は、新型コロナウイルス感染症対策として、あまり他のユニットへ利用者が移動しないよう配慮している。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	自由な暮らしの理解はしているが、安全上施錠させてもらっている。話し合いは出ていないが伝えている。	/	/	/			
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	鍵をかけない工夫はされていない。近所の理解や協力も得られていない。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時に聞き取りした情報をまとめ、個人ファイルにとじてある。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタル、食事量、水分量、排泄、睡眠状態等記入している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療機関にいつでも連絡できる体制があり、常に情報交換を行っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人家族の意向を聞き受診してもらっている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	主治医と連携が取れており、利用者はいつでも適切な医療が受けられるようになっている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後に連絡を行い、報告している。受診の必要性は主治医から家族に説明を行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	その都度、介護サマリーを作成し情報を渡すようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	ケアマネが病院と連携を取り、情報を確認し情報交換や相談業務を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	併設の病院とは連携が取れている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎朝、主治医へ利用者の体調やバイタルなど報告するなど常に相談できる体制にあり、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間体制で連絡できる体制にあり、対応可能となっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタル測定を行い、小さな変化も報告するようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬情報はいつでも確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れがないよう2名でチェックするようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	体調の確認は毎日行い、変化がある時は必ず、報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	定期的診察時に変化や情報を報告するようにしている。				

愛媛県グループホーム菜の花

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時には必ず診察で家族の意向を確認し、また状態の変化に応じて主治医からの説明と家族の意向を確認している。	/	/	/	事業所では終末期や重度化の支援について、利用者や家族の意向をきちんと把握した上で、主治医等多職種でしっかりと検討をするようにしている。事業所の居室で最期まで看取することは少なく、併設の医療機関へ移る場合がほとんどではあるが、利用者や家族の意向に沿えるよう職員間で話し合いを重ねている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医と連携し必要に応じて家族と話し合いを持ち、本人にとってどうしたらいいか検討している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状でどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	力量は把握しており、現状での職員の思いを聞き、支援内容を検討している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	管理者やケアマネが必要に応じて協力して対応している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療機関と密に連絡を取り、連絡体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	特別な内容は主治医から説明があり、その後は職員が協力して家族のフォローに努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	外部研修に参加したり、併設の医療機関での勉強会に参加し助言をもらっている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	訓練はしていないが実践を通して手順に沿った対応が出来るようになっている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	併設の病院からの情報収集やテレビや新聞などから情報を取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	病院からの支持を受け、予防対策に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は出勤前に検温や手洗い消毒を行っており、来棟者についても検温、手指消毒を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	面会時には利用差の状況を伝え、毎月現況報告のお手紙を出している。	/	/	/	事業所では利用者の病院受診後の報告など、職員から家族への連絡をこまめに行っており、利用者の写真がたくさん掲載された便りも作成し郵送している。今後は、職員の異動や入退職の報告についても、便りに盛り込むことなどを検討し、家族への伝達方法を工夫することを期待したい。また、避難訓練等のこれまで家族が参加することを企画していなかった行事にも、家族が参加できることの検討を望みたい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には居室でゆっくりと過ごしてもらえるように努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	行事を行う際には家族の参加も案内しているが参加は少ない。	○	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月の現況報告のお手紙や花だよりにて利用者の生活状況を伝えるようにしている。	○	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	気がるに話して頂けるように来棟時には声掛けを行い、ご家族の気になることなど聞くようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	個々の家族状況に応じて良好な関係が出来るように対応を考え支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事の案内はしているが設備や職員の異動などは伝えていない。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事に家族の参加を呼び掛けているが、家族同士の交流が出来る家族会などは開催していない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	必要に応じて家族に説明して出来る限り対応するよう努めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	普段から家族に連絡報告し、面会時には必ず声掛けを行っている。ケアマネも定期的に家族に意向を聞いている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	管理者・ケアマネ同席で説明し理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	相談があれば主治医やケアマネと協力し出来るだけの対応を行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	金額の変更があった時には文書で説明し、同意を得て控えも渡している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明を行い理解を得ていると思う。	/	○	/	外玄関が施錠されていることも影響するのか、事業所には地域住民が気軽に立ち寄ってくれる関係性には至っていない。地域住民等からは地域行事への誘いも多くあり、幼稚園児の訪問など交流をしている。管理者は、「今後さらに外出の機会を増やし、地域との交流を増やしていきたい」と考えている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	地域の小学校や幼稚園とは交流を続けている。運動会や敬老会の行事には参加させてもらっている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	現在、地域の方の協力は得られていない。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	近所の方の訪問は今はないが今後来てもらえるようにしたい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶はしているが日常的なおつきあいはない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	介護相談員の受け入れをしている。行事の際は地域のボランティアボランティアにも参加して頂いている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	近くのスーパーに買い物に行ったり外食に行ったりしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の小学校や幼稚園の行事に参加したり、近くの飲食店に外食に行ったりしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者や家族の参加、地域の方の参加や民生委員の参加もある。	×	◎	運営推進会議では、毎回順番に利用者と家族に参加してもらっており、地域からの出席率も高い。出席者から外玄関の施錠に関することなどの質問も出され、会議内の意見交換も活発になされている。今後は、日頃の事業所の活動報告に加え、外部評価についても報告を行うなど、各種の課題について具体的な意見を参加者に求めてみるような試みにも期待したい。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	写真による行事の報告や研修報告を行っている。自己評価や外部評価については報告していない。	/	○		/
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	現況報告を行っている。参加者には必ず意見を聞くようにしている。	/	○		△
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマは決めていないが出席してもらいやすい時間帯を選び、曜日や日にちなども出来る限り調整している。	/	○		/
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	公表はしていないがいつでも見て頂けるようになっている。	/	/		/

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	目につく所に理念を貼り出し、日ごろから意識できるようにし、実践に繋がるように努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	菜の花だよりも理念を載せている。	x	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	研修の計画を立て、職員の力量に応じて参加を促している。	/	/	/	代表者は、職員のストレス軽減などの特別な取組みを行っているわけではないが、法人全体での忘年会や納涼会を毎年開催するなど、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	働きながらスキルアップできるように業務の中で技術を伝えるようにしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	代表者は管理者と相談しながら、やりがいや向上心を持てるような環境や配置に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	x	現在同業者との交流は出来ていない。外部の勉強会や研修の参加は今後行っていきたい。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	x	現在、取り組めていない。	○	◎	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	△	ミーティングで話し合い学ぶ機会を持ち、言葉遣いや対応に気を付けるよう管理者や計画作成担当者が指導している。	/	/	/	定期的に法人として虐待防止等の研修会を実施している。不適切なケアは見過ごされることなくミーティング等の機会に検討され、職員同士で互いに意識を高め合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	ミーティングなどの機会に計画作成担当者を通じて振り返りを行うように指導されている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることのないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切と思われるケアを見つけたらすぐに対応を行い、話し合いの場を作り対応の指導をしている。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ストレスが溜まらないようタイミングを見て声を掛けたり、個別で話しを聞くようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	ミーティング等で話し合い、理解している。また、資料は目につく所においていつでも確認できるようにしている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	日々のケアの中で気になる事はミーティングでみんなで話し合い、確認す意識するようになっている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束の希望があっても弊害などのリスクを説明するとともに事業でできる拘束しない取り組みを工夫を話し合せて家族の理解を得るようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	理解できている職員もいるが全員ではない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	相談があれば支援していけるようにした。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要に応じて連絡を取り相談支援している。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成しており、周知できるよう努めている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練はできていないが、実際の業務の中で指導し、実践力は見につけているが全員ではない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	ヒヤリハット報告については取り組んでおり、小さなことでも報告して記録の残すようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	申し送りやミーティングで常に話し合うようにしており、状態把握と事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があればすぐに話し合っって適切で迅速な対応ができるよう努めている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	マニュアルに沿って対応できている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば早期に話し合い、適切な対応と良好な関係作りに努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の会話の中でできるだけ本人の要望が個別に聴けるよう努めている。			◎	職員は利用者の意向を日々の支援の中で聞き取るよう配慮しており、外出や食事のメニューなど聞き取れた意見はミーティングで職員間で検討している。家族からの意向や要望はあまり多くは引き出せていないものの、職員は面会時や電話連絡時にしっかりと時間を取るよう心がけている。家族からの要望については、苦情等の扱いで職員は丁寧に対応している。また、職員は各ユニットのリーダーや管理者に相談することができており、内容によっては事務長や理事長にも報告し対応している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	意見箱を玄関に設置している。面会時にはできるだけ話を聞くようにしている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約時には説明しているがその後は情報提供していない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	代表者は毎日ではないがユニットに来られているが、直接職員に話を聞く機会はあまりない。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	一人ひとりの意見はミーティングで聞いたり、個別で聞いたりしながら利用者本位の支援に繋がるように努めている。			◎	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年1回は自己評価を行っている。目的も説明し、理解を得るようにしている。				運営推進会議において外部評価に関する報告が十分に伝わっていないのか、アンケート結果等からは家族や地域住民の外部評価への理解度が低い様子である。今後は、さらに積極的な報告や意見交換などの取り組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	課題を明確にすることで問題点を意識付けし、職員の意識統一を図っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標に向けて実践しているが、問題点もあり取り組めていない目標もある。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果の報告はしている。	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	計画に掲げた取り組みは行っているが、確認はできていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルは作成しいつでも見れるようにしている。				毎年、定期的に法人全体で避難訓練を実施している。事業所は水害等特別の危険区域にはなっていないため、災害発生時には福祉避難所の指定を受けている。今後は、家族や地域住民も参加できる訓練などの企画が望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回は避難訓練を実施しており、1回は日中、もう1回は夜間想定で訓練している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に避難経路の確認や非常食の点検は行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	年に2回の避難訓練を行い、1回は消防署の参加もある。地域住民の参加はない。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時の研修には参加するようにしているが、地域のネットワーク作りは出来ない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域に向けての発信はできていない為、今後取り組みたい。				法人内の居宅介護支援事業所に地域住民から相談が入ることが多く、事業所に直接相談があるケースは少ない。今後、管理者はイベント時に事業所等として認知症カフェを企画することを検討している。また、近隣の福祉施設等も含めた各種関係機関との関係性を、今後さらに深めていけるような取り組みを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば支援できるようにしている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	行事の際は交流の場としているが、ボランティア以外の地域住民の参加はない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	高校の福祉科の実習を受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	連携はあまり取れておらず、イベント参加もできていない。			△	